

コロナ禍で自己破産も経験 訪日観光客向けのサービスを通じて、 新たなビジネスに挑戦する『連続起業家』



訪日外国人の観光客に、日本の旅行を最大限に楽しんでもらうためのサービスを提供するインバウンドホールディングス。この会社を昨年9月に立ち上げたのは、坂本 正樹（さかもと まさき）。

彼は、大学時代に起業することを決意しますが、社会人としての経験を積むため、証券会社に入社し2年間会社員生活を送ります。その後、道の駅ビジネスを提供する会社を立ち上げ、讀賣テレビ放送株式会社に売却。次には民泊を運営する会社を設立し、日本最大級になるまで成長させますが、コロナ禍で自己破産を経験します。

そして、財務処理を完了した昨年に、株式会社インバウンドホールディングスを設立し、今、上場を目指しています。日本ではネガティブなイメージを持たれる「自己破産」をしても、また新たな分野でビジネスに挑戦する坂本を、ぜひ取材してください。

起業する理由・挑戦を続ける理由

●両親の存在

勤務医だった父親は、坂本が中学生の頃に病院を辞め「医師兼添乗員」という新しいビジネスを始めました。重篤な患者様にも対応できるよう、医師であり通訳でもある添乗員として海外旅行に同行するという、非常に意義のある事業です。ゼロからの起業でしたが、苦労を一切見せることなく、自身の事業や将来に希望を抱きながら楽しそうに働く姿を見て、坂本も自然と起業を意識するようになります。また、大学1年生のときに母を白血病で亡くしています。生前は「まだ死にたくない。子どもたちが大人になる姿を見届けたい」と言い続けていましたが、その思いは叶いませんでした。このとき強く感じたのは、「時間には限りがある」ということ。そして、母の無念を晴らすためにも、自分が立派に成長し、社会に貢献する有意義な人生を歩むことで、母を安心させたいという思いを持つようになりました。

●ボクシングの経験が挑戦につながる

中学3年生から大学1年生までボクシングに打ち込みました。プロ転向の直前に目の怪我でボクシングからは引退しましたが、「人と違う人生を生きたい」「目標を高く持ちたい」「意味のある人生にしたい」という想いはボクシングで培い、起業家になることを決意します。

連続起業家 坂本のビジネスの軌跡とエピソード

●サラリーマン時代 証券会社勤務

日興コーディアル証券（現SMBC日興証券）に就職。

この業界を選んだ理由：入社1年目から企業経営者と直接やり取りをする環境があり、自分自身が飛躍的に成長できると考えたため。起業資金を貯めるという観点からも、初任給の高さに魅力を感じました。

仕事：個人・法人向けの資産運用に関する新規営業を担当。1日350件の電話や富裕層のお宅への飛び込み訪問など、非常に地道で厳しい活動を積み重ねて成果を上げます。

貯金0運動：入社1年目は、いただいた給与はすべて自己投資にあて、経験の蓄積や人脈形成に注力するという、非常に充実した1年間を過ごしました。

起業準備：2年目に「早く起業し、よりチャレンジングな人生を歩みたい」考え、500万円の貯金を達成するという具体的な目標を掲げ実行。そしてちょうど1年後に退職し、起業家として歩み始めます。

●道の駅ビジネス

地方創生ブームに乗る：2015年「地方創生」という言葉が広まりつつあり、その流れに合わせて、道の駅の口コミサイトやECモール、道の駅を活用したフェスなど、複数の事業を立ち上げました。その中でも「道-1グランプリ」は現在も継続しているプロジェクトです。

事業譲渡：当初のビジネスモデルは、道の駅本体から収益を得るスタイル。しかし、道の駅の多くは第三セクターが運営しており、行政が関与しているため、予算ありきの体制の中で売上を拡大することは非常に困難でした。そこで、途中から方針を転換し、道の駅を活用したい民間企業から収益を得るビジネスモデルへと変更。その結果、ビジネスは徐々に軌道に乗るようになり、最終的には、これらの事業を讀賣テレビ放送に事業譲渡しました。

●民泊の開発・運営（2社目の起業）

上場準備まで：2017年当時、訪日外国人観光客が急増していたタイミングで、上場企業であるAPAMANと共同で、民泊の開発・運営を行う合弁会社を立ち上げます。初年度から管理物件数を一気に拡大し、順調に上場準備へ。さらに翌年には、総合商社の丸紅とも資本業務提携を結び、上場に向けてさらなるスピード感を持って事業を推進しました。

自己破産：しかし、上場を目前に控えた2019年、突如として新型コロナウイルスが発生し、インバウンド事業全体が一気に逆風に。当社の業績も急速に悪化し、数年間耐え抜こうと努力を重ねましたが、回復には至らず、最終的には会社を倒産させる結果となり、坂本自身も自己破産を経験します。

●株式会社インバウンドホールディングス設立（3社目の起業）

2024年9月会社設立：自己破産に関する残務整理も完了し、「株式会社インバウンドホールディングス」を設立。社名の通り、訪日外国人（インバウンド）を主なターゲットとした事業を開始。

インバウンドや旅にこだわるのは？

●生い立ち

坂本の父は留学経験があり、幼い頃から家族でよく海外へ出かけていたため、海外は常に身近な存在でした。大学時代には、アメリカへの1年間の留学も経験し、現地で多くの外国人と交流する中で、日本の文化や人、風景についてたびたび賞賛の言葉をもらいます。

そうした言葉を受けるたびに、「日本にはこんなにも素晴らしいところがあるのだ」と改めて実感し、「もっと多くの人に日本の魅力を知ってもらいたい」「日本の良さを自分の言葉で、体験で伝えていきたい」という思いが強くなっていきました。

この原体験が、現在のインバウンド事業を手がける原動力であり、事業の土台となっています。

●社会的な背景

昨年の訪日外国人旅行者はコロナ禍前の人数を超え、旅行者一人当たりの支出額も同じく増加しています。

訪日外国人旅行者数
2019年 → 2024年
3188万人 → 3687万人
日本政府観光局（JINTO）の調査による

訪日外国人 旅行支出/人
2019年 → 2024年
15.9万円 → 22.7万円
観光庁の「訪日外国人の消費動向 報告書」による

旅マエ・旅ナカ・旅アト、3つのフェーズで旅をデザイン

旅行を「旅マエ・旅ナカ・旅アト」と3つのフェーズに分けて、それぞれでサービスを提供します。

旅マエ

旅行前に行うリサーチや情報収集など旅の楽しみを発見するサポート。SNSメディア「SPOT JAPAN TV」を立ち上げ、日本国内のホテルやレストラン、観光スポットなどを世界中の旅行者に向けて紹介します。日本の知られざる穴場スポットから、一度は訪れたい名所まで、厳選した情報をお届け。ホテルや伝統的な旅館、絶品グルメ、絶景観光地など、日本ならではの魅力をリアルな体験や美しいビジュアルとともに発信していきます。



旅ナカ

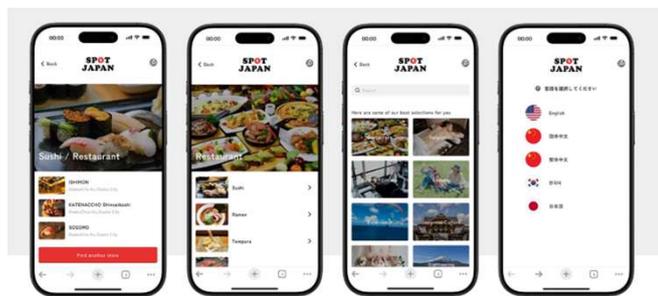
・ホテル・民泊運営

国内外の旅行者が快適に滞在できるホテルや民泊の開発・運営を行います。地域の魅力を活かした宿泊施設づくりにこだわり、観光地の雰囲気を反映したデザインやサービスを提供。最新設備を備えたホテルから、家庭的な温もりを感じられる民泊まで、多様なニーズに対応しています。



・SPOT JAPAN

訪日外国人観光客が旅の途中で快適に楽しく過ごせるよう、厳選されたおすすめのスポンを紹介するサービスです。ホテル、レストラン、観光地、ショッピング、リラクゼーションなど、各カテゴリーから特に優れた施設のみを掲載。多言語対応の情報提供で、旅行者が安心して日本の魅力を満喫できるようサポートします。



旅アト

まだ開発中のサービスですが、旅から帰った後、日本の商品が買えるECサイトを作る予定です。帰国後もずっと日本のファンになってもらえる仕掛けを考案中です。



“連続起業家”坂本正樹のこれからの挑戦

●上場。そして時価総額1000億円目指す

今後の目標として、TOKYO PRO Marketに上場しその後、時価総額100億円を達成させ、グロースに上場します。目標は、「50代までに会社を1000億円企業にすること！」。

●事業ごとに子会社を設立

社名に「ホールディングス」と冠しているのも、将来的に上場後、事業ごとに子会社を設立し、それぞれに独立した業務を担わせていくつもりです。インバウンドホールディングスは持株会社として機能し、宿泊事業を担う会社や、「SPOT JAPAN」のようなサービスを展開する会社などを分化・設立していく予定です。

●次世代につなげる人材育成

今、坂本が強く関心を持っているテーマは「教育」です。かつては自分自身が何かを成し遂げることに情熱を注いできましたが、今は視点が大きく変わってきています。これからは、自分が主人公である必要はありません。むしろ、「新たな主人公となる人」を育て、支え、輩出していくことにこそ、自分の役割があると感じています。



坂本正樹のプロフィール



坂本 正樹（さかもと まさき）

株式会社インバウンドホールディングス 代表取締役

1986年10月 アメリカ生まれ 福岡県出身

学生時代から起業することを決意するが、社会人としての基礎を築きたいと大学卒業後、日興コーディアル証券（現SMBC日興証券）入社し、個人向け資産運用営業に従事。2年後同社を退職し、2015年に株式会社XSを設立し、道の駅と地域の魅力をつなぐプラットフォーム事業「みちぐる」を立ち上げ（後に読売テレビ放送へ売却）。2017年には、民泊運営会社「株式会社グランドゥース」設立し、国内最大手の民泊事業者として上場手前まで進むが、2023年コロナ禍の影響を受け自己破産。

残務整理も完了した2024年9月に、訪日観光客向け事業会社「株式会社インバウンドホールディングス」を設立。

■会社情報

社名：株式会社インバウンドホールディングス

所在地：大阪市西区新町1丁目5-7

四ツ橋ビルディング2F

設立：2024年9月

従業員数：163名

正社員15名、アルバイト・パート41名、業務委託107名

HP：<https://inbound-hd.jp/>



取材・インタビュー歓迎いたします！

【PRに関するお問合せ】

株式会社インバウンドホールディングス 広報 中埜(ナカノ)

TEL 080-3867-8022 MAIL nakano@inbound-hd.jp